



ロータリー：
変化をもたらす

宇都宮ロータリークラブ会報

RIテーマ「ロータリー：変化をもたらす」
宇都宮ロータリーテーマ「一歩前に進みましょう」
第2550地区ガバナーテーマ「チャレンジ&イノベーション」
～挑戦と変革で切り拓く、第2550地区の未来～
2017～2018年度RI会長イアンH. S. ライスリー 宇都宮会長 印出井敏英
第2550地区ガバナー 太城敏之 幹事 飯村 悟
例会日 火曜日12:30 会場 宇都宮東武ホテルグランデ 宇都宮市本町5-12
事務所 宇都宮市江野町1-12 橋木実業ビル2階 TEL 028-666-0555
E-mail u-rc01@silver.plala.or.jp FAX 028-666-0333

(2017)平成29年7月25日 No. 3208回 2017～2018年度(第4回会報)

会員数104名出席人数63名出席率70%

ビジター紹介(親睦活動委員会 矢治和之委員長)

中野智之様(宇都宮南ロータリークラブ・ライラ委員長)

石田朋靖様(宇都宮大学学長)

堤ゆう子様(宇都宮大学)

会長挨拶(印出井敏英会長)



皆様、こんにちは。

早いもので、私の年度で7月、もう4回目の例会となりました。この1ヶ月間、本当に多忙のときを過ごしました。でも皆様のお陰で、無事今日まで来られましたので、これからもどうぞよろしくお願い致します。

本日、ご来訪の皆様も、お忙しい中お越しいただき、いつも色々と本当にありがとうございます。

報告事項

宇都宮大学学長石田様

皆様、こんにちは。

石田と申します。

私は、実は宇都宮さつきロータリー創立からのメンバーで2年間おりましたが、学長に就任してから多忙でさつきロータリークラブはほとんどが夕方からなのですが、ほとんど出席できなくなってしまいましたので、1年間休会させていただいております。隠れロータリアンです。

今日来て驚いたのが、さすが、『THE 宇都宮ロータリー』という雰囲気にも圧倒された次第です。

宇都宮大学は地方の大学ですから、地方の皆様にかわいがっていただいてナンボの大学でございます。そうした中で栃木を、宇都宮大学をぜひともどうにかして元気になりたい！と、そんな事を行っております。

池田理事からのちほどお伝え致しますが、学長のわたしがご挨拶もないのも大変失礼かと思いましたので、お話しさせていただきました。

その後に非常に失礼なぶしつけなお願いもする事になっていると思います。宇都宮大学を含め、全国の国立大学は国の財政と共に非常に財政的に厳しくなっております。

そんな中で色々とお願ひがあると思います。それも含めて、私も頭を下げなきゃいけないと思い今日は参加させていただきました。どうぞよろしくお願ひいたします。

宇都宮大学堤学長補佐様

皆様、こんにちは。宇都宮大学の堤と申します。
学長補佐としてファンドレイザーをしております。

ファンドレイザーって、皆様聞き慣れない言葉かと思いますが、非営利団体、NPO や学校法人などのために、寄付だけではなく、いろいろな形で資金調達、ベンチャー立ち上げ、収入構造の多様化のお手伝いをさせていただいております。
今日はよろしくお願ひいたします。

第2550地区ライラ委員長

宇都宮南ロータリー中野様

本年度ライラ委員会委員長を仰せつかっております、宇都宮南ロータリークラブより参りました、中野でございます。よろしくお願ひいたします。

初めて、宇都宮ロータリークラブの例会に出席させていただきました。ありがとうございます。

知っている方がほとんどで、アウェーな感じがしないので、とても嬉しく思っております。

本年度の一般ライラは11月3日、4日、5日と開催されます。毎年、宇都宮ロータリークラブには多くの受講生を登録いただきまして誠にありがとうございます。
本年度も多くの受講生を登録していただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

幹事報告飯村幹事

手短に、お願ひをさせていただきます。
会費を、どうぞお早めにお支払い下さい。

また、パスト会長の皆様と今年度の理事の皆様で懇談会を開催させていただきたいと思うのですが、8月1日午後6時からむさしのさんを予約しておりますので、どうぞファックスでご返信、ご参加いただき、パスト会長からご意見いただければと思っております。多岐にわたって、我々理事が考えている事を、パスト会長の皆様にもお知恵を拝借できればと思っております。
理事の皆様も返信よろしくお願い致します。

例会プログラム紹介松本委員長

本日のプログラム紹介をいたします。本日は会員卓話となりまして、池田宰会員の、演題は『宇都宮大学の地方貢献への取り組み』です。簡単に池田さんの略歴を紹介いたします。

1981年 東京大学工学部卒業

1988年 東京工業大学助手就任

1997年 広島大学工学部助教授就任

2002年 宇都宮大学工学部教授就任

現在は宇都宮大学理事、副学長をされております。

卓話 池田会員

『宇都宮大学の地方貢献への取り組み』

今日はこういった機会を頂戴しありがとうございます。

私、卓話は2回目ですが、前は工学部での仕事の内容について紹介させていただきました。

今回は大学の全般的な紹介とお願いを含めて、お話をさせていただきたいと思います。

だいたい大学の先生は話し始めると止まらなくなり、時間を気にせず延長してしまうのが常ですが、本日は時間をまもりながら話したいと思いますので、端折りながら話したいと思います。

これ、ご存知でしょうか？

真ん中が宇都宮大学の正確な校章です。男体山をモチーフしており、左右対称なのは中禅寺湖に映った男体山をモチーフにして描いたと言われております。

最近はこの校章は格式が高いですが、ロゴマークの様なものの方が良いということで、宇の字をデザインアップしまして公募しました。

結果的には卒業生がデザインしたロゴマークでした。また、こちらは最近はやりのゆるキャラで、『ウーたくん』と申しまして、ラインスタンプにもなっておりますので、よかったらお使いください。

これはご存知だと思いますが師範学校と高等農林学校が一つになり、これが教育学部になり、農学部になり・・・ということで、教育学部、農学部の歴史は100年ほどの歴史があります。

工学部は戦後に出来ておりますので50年ほど、その後国際学部が平成になって出来ました。平成16年に国立大学が法人化という流れがあり、『全て丸抱えではなく、半分なり三分の一は自分たちで稼いでこい』と言われてしまっております。

ただ、本日も国会喚問、証人喚問してるかもしれませんが、文部科学省の許しがないと何も出来ないという状況はなにも変わっておりません。

平成28年に地域デザイン科学部というものが新しく設置をされる事になりました。学生数ですが、5学部でだいたい4000名ほどです。大学院が800名弱、そのうち留学生が250名程です。外国の大学と交流協定を結んでいたり、研究機関と結んでいたりとあります。

スタッフは、教授・准教授がだいたい130～140名、講師・助教授助手というかたちで現在340名程の教員、先日から少しお騒がせしておりますが、附属学校の先生方が85名、事務職員が200名ちょっとという事で、スタッフは600名弱程度の人員となっております。全て合わせても6000名程度ということで、国立大学の中では非常にコンパクトです。医学部薬学部などがあるところはもっと大きくなりますし、附属病院もあって色々な意味で規模が大きくなりますが、宇都宮大学はこの形で頑張っております。

さて、宇都宮大学もビジョンや3C精神を掲げております。

グローバル社会、イノベーションなどありますが、その中でも、『地位域社会の形成』というところ、地域における地の拠点、これが、宇都宮大学のひとつのビジョンとなっております。

最後にまた繰り返し申し上げたいのですが、最も学生を大切に育てる、最も地域から信頼される、ということを目指しております。

それから3C精神。これは、現在の石田学長になってから掲げた言葉なんですが、『チャレンジ』『チェンジ』『コントリビューション』の頭文字です。

『自ら主体的に挑戦し、自らを変え、そして広く社会に貢献して行く』ということで、枕詞に必ず『自ら』とつきますが、挑戦、変革、貢献、これを学生・スタッフ、卒業生モットーとしていければと考えております。

先ほど申しました通り、国立大学法人になりますと、これまでの国立大学とは違い6年毎にいろいろな目標を定めてそれを査定されるという形になりました。実は既に第1期、第2期と法人になってから13年、14年経ちますので、平成28年から第3

期に入っております。第1期、第2期は終了後に実質評価を受けました。第1期は非常に評価が悪かったのですが、第2期は持ち直しました。先日評価があったのですがそれなりの評価をいただく事が出来ました。実は文部科学省、国が、第3期は終了時ではなく目標・計画を立てた段階でまず評価がされるようになりました。その評価結果で1年目の予算配分に差がつけられたというのが現実です。もう一つ、国立大学の枠組みを3つの組に分けるように国が決めました。地域に貢献する大学、特色分野の大学、海外との研究で貢献する大学です。宇都宮大学は地域に貢献する大学を選択しこの中に入りましたが、数が多いので競争がはげしくなります。第3期中期目標・中期計画で5つの戦略を立てました。地域の地の拠点形成、地域の地の人材育成の強化、グローカリーダー、イノベーション、ガバナンスということで、地域の地を創造して変革をリードする地域活性化の中核的拠点の存在になろうという事を掲げました。その中で、地域デザイン科学部を立ち上げました。地域の課題を解決し、地域の強みを生かした町づくりを支える専門職業事業員を養成するようなプログラムで、文科系理科系を融合した町づくりのプロを育てる特色ある教育をしましょうというものです。この中でグローバルという言葉ですが、これは造語でグローバル、世界に羽ばたくという意味と、ローカル、地元という意味をかけあわせてグローバルという言葉にしました。要は地元からのグローバル化、地域からのグローバル化に対する人材育成、地域リーダーを育成を頑張りましょうということです。私はもともと理系ですので、地域イノベーション、産業活性化というかたちで頑張りましょうというものです。ガバナンスはもう民間企業でもやっているように学長のリーダーシップでいろいろな事をやってみようということです。

こういった事を色々掲げたところ、平成28年、昨年度の運営交付金が全体で100億円を傾斜配分しました。我々がもらえるお金が一部召し上げられて、それを集めて評価が高い大学に優先的に配分、評価が低い大学には落とさないという事が昨年度から行われております。一番戻しがよかったのが118%、110%、100%となり、98%は戻ってこなかったという取り組みになっております。宇都宮大学はトップ9の大学に入ることができました。

これはある意味、取り組みの強化が進んでいるなという評価です。実は国が国立大学を評価し始めている流れとなってきました。

また、週刊誌ネタとはなりますが、宇都宮大学は高い評価はいただいております。その他に、日経新聞さんのデータですが、上場企業と非上場企業の採用担当者による採用した学生を見て更に採用したい学生のいる大学で、宇都宮大学は5位に入っております。卒業生も企業ではかなり評価していただいているので、我々の活動が間違っていないんだなと感じております。そういう意味では、文系理系を問わず良い教育をする為には、最先端の研究の裏支え、下支えが必要であるということです。タイムズハイヤーエデュケーション（大学ランキング）、THEにエントリーしましたところ、800番台というランキングでした。ただ、国立大学の中では同率28位で86個ある中の内このランキングにいる、それからアジア太平洋ランキングでは38位、日本の中では33位ということで、それなりに頑張っているほうではないかと思っております。宇都宮大学は医学部薬学部がないので、研究面では突出できる可能性が高くなっております。その中では我々は頑張っているほうかなと思っております。

例えばイチゴのフレッシュル、特許を取っている容器をベルギーの国際理学審査機構に送りました。日本から栃木のスカイベリーをロボットで採取して、触れずに冷蔵コンテナで8日間運ぶというものです。初めてアジアから生鮮食料品が届いたとして、スイーツの部で評価を受けました。最初の年は2つ星でした。これには理由があり、審査が6月だったためイチゴの旬が終わっていておいしいイチゴが送れなかった為です。昨年度は気候の影響で、遅くても良いイチゴが送れたのでしっかり味を見ていただけたので3つ星をいただきました。こういった外まで輸送できるもの、それを自走するイチゴ採取ロボットで自動的に摘んで行く、これが昨年末に文部科学大臣賞を受賞しました。それから同じようなイチゴの事業であったり補填するような事業であったり、色々なことが、文部科学省に認められて、栃木県や地元企業と提携しているということを、皆様方とも色々形で盛り上げて行ければと思っております。

大きいもの小さいもの、色々ありますけれど、例えば、県内企業と産学連携での実績、県外ですと年間約30社ほどと連携・研究をさせていただいております。県外、日本全国合わせると170件程度の毎年共同研究がございますが、30件ほどは、栃木県内の企業様とコラボレーションさせていただいております。今後も色々続けさせていただきたいと思っておりますので、ぜひお声がけをいただければと思っております。ただ、個人的な見解ですが、大学の欠点といたしまして、世間知らず、社会常識を知らない、研究は出来ても開発、つまり社会実績になかなか結びつかない。机上の空論すなわち実用に至らない、それから納期締切りの概念が薄い、あと純白の前例主義ということで、ある意味大学に企業様から提案をいただいたときになかなかダイレクトに至らないということがあるかと思っております。それは我々の反省点として思っております。もうひとつ私宇都宮大学に来て16年になりますが、来た当初、宇都宮大学は敷居が高いとよく伺いました。最近では立ち位置を変えてきていますが、お役に立てる、面白くつきあえる人材もいろいろおりますので、お気軽にどうぞご相談にお越しいただければと思っております。

地域に向けた窓口という事で、現在3つのセンターが存在しております。

地域共生開発センター、連携教育センター、地域デザインセンターとありますが地域と名がついたセンターが3つもあってわかりづらいという意見がありますので、平成30年に**地域推進創世機構**ということで3つのセンターを統廃合しまして自治体・民間企業・他大学教育機関・その他銀行含め、沢山の団体を含めて、地域連携、地域人材育成など一元化したことをしようとして動いております。またお問合せ等も明確にしようとして動いておりますので、出来上がりましたらよろしく願いいたします。

本日封筒でいろいろ資料をお渡しさせていただきました。その中に冊子として**ゆうゆうわん**という宇都宮大学の広報誌を入れました。今度できましたファナックの方が写っておりますが、この方宇大工学部の卒業生で責任者をしております。その他にもいろいろなことが書かれておりますので眺めていただければと思っております。一つ前の広報誌の後ろの方に新事業の説明が書いてありますので、いわゆる地方蘇生の問題についてかかれております。栃木県はバランスが取れている方ではあります。15歳から18歳のところは、大学進学などを考えますと深刻です。栃木の人間に、宇都宮大学に来た人間に栃木の良いところを知ってもらうのは非常に良いことではないかということが重要であると言う事で、県内の高専さん、大学さんと協力しつつ、首都圏の大学とも連携をし、県内高専・大学とは県内就職を、首都圏大学とはUIJ就職対策を目指

す形での連携を組んだ仕事をはじめております。たとえば、栃木を知るといふ新入生セミナーのガイダンスの実施、今年実施の学生の感想は、栃木出身の学生を含め良い感想が多く、教える事はいいことだとかかなり思っております。今回の冊子の中にも実務化した講義の先生方のお話し等もありますしいろいろなことを仕掛けてありますのでみていただければと思います。

もうひとつ縦長の『これから出会う』というパンフレットが入っておりますが、横に広げていただきますと、これから出会う学び、働き、暮らす、栃木と文章がつながるようになっております。これを授業で活用しながら栃木を学ぶ材料としております。また、18歳からの栃木仕事学ということで、今まで国立大学ですので、あまり栃木を全面にだすことはしませんでした。冠をつけて紹介することがいいだろうと実施しており、国から栃木県内の就職率を上げろといわれておりますが、当然栃木県内の就職を強制するものではありません。自分の将来に対する学生自身の気持ちが第一で、しかし、栃木をよく知らずに卒業して行く学生が多いのも事実です。栃木県内出身の学生であっても知らない事が多いということで、地元をよく知って、地元を良くする人材育成プログラム、また、県内就職の考えを整えて、選択肢を増やすこと、地元をよく知る事で、世界で活躍する際の資産になりますし、そのなかで栃木で活躍できる人材を輩出して行きたいと思っております。

もうひとつ、1枚紙がはいっております。

今まで社会人の学び直しということで、三大学で連携した経営工学講座や、ここ2年間宇都宮大学独自で3Cものつくり景気と講座ということで、ここにご参集の方にも何人か非常勤で講義していただいたこともあります。今年度の秋からリニューアルして、宇大塾というものを新規開講しようというものになっております。これは基本的に若手、20代30代の社会人の方が自分を見つめ直して、また、栃木に資する人材になる為にとという意味でのプログラムを構築しております。

小林先生に、発起人にもなっていただきまして、色々と仕掛けておりますのでこれを大々的にこの秋から始めます。来年度以降、かなり拡充して行くつもりですので、皆様の中の部下であったり、メンバーであったり、知り合いにお勧めいただければと思っております。後身を育てるといふお気持ちでご協力頂ければと思っております。

最後に、非常に心苦しいのですが、基金を立ち上げております。宇都宮大学で寄付というのは今までも募っていたのですが、国からの財政資源がものすごく減っています。宇都宮大学を企業とすると、16年前は100億円でその内60~70億が国から、残りの30~40億が授業料などの収入となります。その60~70億の国から来る運営交付金がこの15年間、1%ずつ毎年減らされております。10億以上減っている、ということになるんです。今は、100億ではなく80億代企業となっております。人員は変えられません。学生の定員も変わっていません。ということで、スリム化しなくては行けないと色々取り組んではおりますが、運営交付金はどんどん減って行きます。基金を作るといふことで、例えば学生の支援、奨学金であったり、新しいファンドを活性化したり、キャンパスの整備にも少し使わせていただけたらと思っております。先生方にもお願いしまして進めているところでございます。それに関しまして、宇都宮大学3C基金のご案内というパンフレットがございますので、のちほど目をお通しいただければと思っております。

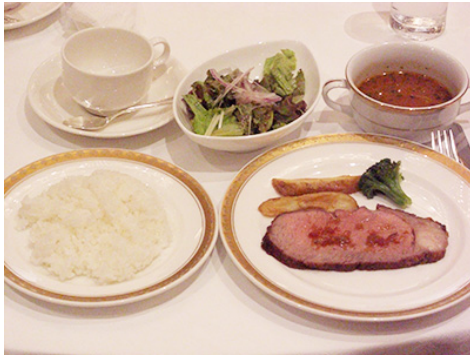
それから、今日ご紹介いたしました堤が、いろいろとお伺いする事があるかと思しますので、そのときは門前払いせずお茶だけでも付き合っただけであればと思いますのでよろしくお願いいたします。

宇都宮大学も栃木 SC のスポンサーとなっておりますし、ブレックスが優勝したときも皆で喜びました。自転車ではブリッツェンの雨沢が宇大工学部の卒業生です。そういったいろいろなサポーターにはなっているんですが、逆に皆様には宇都宮大学のサポーターになっていただければと思っております。

宇都宮大学は地域に資する大学、地域から頼りにされる大学、地域に必要な大学、地域と共にある大学、最も地域から愛される大学、そして、1番大事なことは、日本で1番学生を大事にする大学を目指しております。その為に、皆様からもご指摘やご支援をいただければと思っております。

ご清聴どうもありがとうございました。

今日の食事



- ・ローストビーフ 和風ソース
- ・ライス
- ・スープ
- ・サラダ

8月1日 「健康経営に関するサントリーからのご提案」
サントリービバレッジ 関東・甲信越支社 櫻木 優美様

会報委員 増田直樹委員
写 真 田中正彦委員

メールアドレス：u-rc01@silver.plala.or.jp

下記 URL をクリックすると会報バックナンバーが表示されます

<http://www.u-rc.gr.jp/kaihou/web3.htm>